

第3回 日本臨床薬理学会 九州・沖縄地方会の開催報告

長崎大学病院 臨床研究センター

山本 弘 史

会 期：2018年12月1日（土）

会 場：長崎大学医学部良順会館

会 長：山本弘史（長崎大学病院臨床研究センター）

テーマ：出航，臨床研究の新時代へ ～帆船は向かい風に対して前に進めるのか？～

1. 開催概要

日本臨床薬理学会第3回九州・沖縄地方会は、2018年12月1日（土）、長崎大学医学部良順会館ボードウィンホールにて、13時から17時まで開催された。

開会に引き続き、立石正登・長崎国際大学薬学部教授および池田龍二・宮崎大学医学部附属病院薬剤部長の座長のもと、一般演題6題の発表が行われた。内容は、医師主導治験の運営体制、Phase 1施設における身体診察標準化、治験薬調製の院内協働体制構築、遺伝子カウンセリングを必要とする治験でのCRC業務、CTCAE重症度評価を活用した医師主導治験の実施、倫理審査委員会の国際認証審査の受審経験と、エビデンス構築のための実務面、応用面の話題が中心となった。



Photo. 1 第3回九州・沖縄地方会会場：長崎大学良順会館

次いで、北原隆志・山口大学大学院医学系研究科臨床薬理学講座教授（前・長崎大学病院臨床研究センター・副センター長）が、「くすりとその歴史から考える臨床研究」について、特別講演を行った。

さらに、シンポジウムとして、臨床研究法への対応をテーマとして取り上げ、笹栗俊之・九州大学大学院医学研究院臨床薬理学分野教授の座長のもと、長崎大学・山本から制度の背景について説明し、岩江荘介・宮崎大学医学部附属病院臨床研究支援センター研究倫理支援部門長から法施行後の研究ガバナンスの在り方について、さらに上村尚人・大分大学医学部附属病院総合臨床研究センター長から、法への対応と臨床試験について、プレゼンテーションが行われた後、フロアとの討議が行われた。

参加者は108名と、3回目の地方会で3桁に到達することができた。閉会后、会場近くの中料理店で、立食形式で懇親会が行われた。

2. 開催が行われるまで

九州・沖縄地方会は、2015年までに35回開催された「臨床薬理阿蘇九重カンファレンス」の伝統と精神を受け継ぐものとして開催される特色を有する。長崎で第3回の九州・沖縄地方会の開催を行うことが決定したのは、2016年7月の第1回九州・沖縄地方会が行われるのに併せて開催された世話人会のときであった。第2回九州・沖縄地方会が、琉球大学で開催された際に、第3回地方会は、WCP2018の開催日程と調整し、2018年12月前後を目途に開催することをアナウンスし、その後、他地域の地方会および日本臨床薬理学会学術総会の開催日程に関し、学会事務局とも調整をして、開催期日を決定するに至った。

会場は、市街地中心部から比較的近距离にある利を生か

著者連絡先：山本弘史 長崎大学病院臨床研究センター 〒852-8501 長崎県長崎市坂本1-7-1

TEL：095-819-7726 FAX：095-819-7918 E-mail：hiroshiy@nagasaki-u.ac.jp

投稿受付2019年2月13日、掲載決定2019年2月18日

ISSN 0388-1601 Copyright：©2019 the Japanese Society of Clinical Pharmacology and Therapeutics (JSCPT)



Photo. 2 第3回九州・沖縄地方会の会場内



Photo. 3 一般演題の発表

して、長崎大学医学部の施設を借りることとした。会の準備にあたっては、長崎大学病院臨床研究センター教職員を挙げての支援をしてもらった。財源としては、地方会世話人会で、「質素儉約に努め、無理なく、どこでも持続的に開催できるよう努める」旨の申し合わせをして頂いていたことを踏まえ、企業からの寄付、広告、出展その他の支援を募らず、学会からの補助および学会参加費のみで運営した。

第1回の開催地である大分は臨床薬理学のメッカであり、また第2回の琉球大学は近年の業績が全国から注目されているのに対して、長崎は臨床薬理学の定着度が浅い地域であり、学会地方会を受け入れ可能かいささかの躊躇はあった。一方、GCPの施行以来、長崎は、治験の実施などに前向きに取り組む地域となっており、長崎大学病院にも日本臨床薬理学会認定のCRCが12名在籍するなど、臨床薬理学の果実を享受し続けてきた立場であり、生産者というより消費者の立場であれば、相当のニーズが予測された。そこで、第3回地方会では「出航、臨床研究の新時代へ～帆船は向かい風に対して前に進めるのか?～」というテーマを掲げ、2017年4月に成立し、2018年4月から施行される臨床研究法の新規制の逆風のもとでの取組を中心とさせて頂くことにした。

3. 開催地の紹介

長崎の地は、医学の歴史で極めて重要な役割を果たした。江戸幕府の鎖国の下でも、長崎は中国およびオランダとの交易のために唯一、開港していた所であり、西欧の科学、医学や中国などの医薬品などは全て長崎経由で日本に入っていた。開国直後、1857年にオランダ陸軍軍医であったポンペ・ファン・メールデルフォールトが長崎奉行所の一室で松本良順とその弟子たちに講義を開始し、これが日本の近代西洋医学のスタートとなった。長崎大学医学部はこれを起点としていて、2018年で創立161年を迎えた。今回の会場の良順会館は、松本良順が我が国近代医学導入に果たした役割を顕彰して命名されており、ホールの名称「ボードイン」は、ポンペの後、着任したアントニウス・ボードウィンにちなむものである。1945年の原爆投下により、爆



Photo. 4 シンポジウム質疑風景

心地に近い長崎医科大学（当時）では、多数の教職員、学生等が死亡するなど、壊滅的な打撃を受けたが、戦後、復興して現在に至っている。

4. 地方会を終えて

今回は、治験以外の臨床研究が初めて法律で規制される制度改正直後の種々の混乱の中での開催となった。臨床研究を行う病院、大学などの研究機関は、「研究者」という「船長」や「乗組員」に航海の適切なプランと意欲がいかにあろうとも、社会からの研究資金、患者の理解と参画、製薬産業などの協力といった「風」を受けなければ、研究という航海を達成できない帆船のようなものであるが、風は簡単には出航を許さないような方角から吹き続けていた。「前に進めるのか?」という問いに対する答えは、もちろん「Yes, 然り」でなければならない。幸いに臨床薬理学はどんな風の中でも前に進む精神と技術のエッセンスを有しており、どのような境遇でも研究者の使命を果たす鍵になる。

シンポジウムの質疑などにおいて、活発な討論を頂いた中で、ヨットマンでもあるシンポジストの上村教授から「原理的には帆船は、順風よりも逆風の方がうまく前に進める」と発言頂いたが、これが、今回の地方会からの回答といえる。

第4回九州・沖縄地方会は、柳田俊彦・宮崎大学医学部看護学科臨床薬理学教授を大会長として、2019年7月6日（土）に宮崎観光ホテルで開催される。第3回までにも増して活発なご参加を頂くことを期待する。